

1



2



1_今回修繕された人形 2_10月に開催された「第8回きほく芸能まつり」で新しい人形による「三番叟(さんばそう)」が披露された

「三番叟」の人形を修繕

鬼北文楽、新たなスタートへ

町の伝統芸能の1つである「鬼北文楽」
真新しい、華やかな衣装を身にまとった人形とともに
その伝統を、その技術を永久に継承すべく
今、再出発—

人形頭と衣装道具一式が
県の有形民俗文化財に指定
されている「鬼北文楽」。

明治30年頃、淡路の人形
浄瑠璃、上村平太夫一座に
よってその伝承の礎が築か
れ、「泉文楽」として地元の人
々に親しまれるも、時代の
流れとともに、長年その公
演が途絶えていました。

しかしその後、火災などの
災難を機に高まってきた
永久保存・修復運動。そし
て昭和61年、この地に再び
「鬼北文楽」が蘇りました。

現在では、鬼北文楽保存
会によって全国各地で公演
が行われています。

その鬼北文楽保存会が所
有している9体の人形。そ
の中で、祝い事の席で演じ
られることが多い「三番叟
(さんばそう)」を演じるた
めの人形2体が老朽化した
ため、このたび修繕が行わ
れ、同時にその衣装も新調
されました。

さらに鬼北文楽の魅力を
広めていくために、そして、
これからもその伝統を伝え
ていくために、この人形の
修繕を機に、鬼北文楽は新
たなスタートを切りました。



文楽を通じて 表現する自分

高橋 哲生

鬼北文楽保存会会長
Takahashi Tetsuo

鬼北文楽の根源は、農村文
楽、つまり大衆芸能です。伝
統的なことを守ることも大切
ですが、それを守りながらも、
自分たちの捉え方で、自分た
ちのやり方で表現していける
ことが、その魅力の一つだと
感じています。それは、その
土地その土地に残っている文
化だからこそできることでも
あるのです。

時代の流れの中で、表現方
法も自然と変わってくるもの
です。歴史を紐解き、それを
受け継ぎながらも、自分なり
の解釈で、自分らしさをプラ
スしながら演じることに面白
さを感じ、これまで鬼北文楽
を演じてきました。

しかし、せっかく人形が新
しく立派なものになっても、

それを継承していく人がいな
ければ、今後誰もその面白
みを体験することもなく、廃れ
てしまうことになります。そ
れはとても寂しいことです。

鬼北文楽には、こういう姿
勢ではないといけないという
決まりはありません。世代が
違えば、違う楽しみ方があつ
てもいいと思っています。

機会が少ないですが、とり
あえず一度見に来てくださ
い。そして、興味を持ったら、
声をかけてください。敬遠せ
ず、ぜひ一歩踏み込んでもら
いたいと思います。

年齢は問いません。鬼北文
楽を通して、自分を表現する
ことの面白さを、一緒に感じ
てみませんか。